

## 夏目漱石の小説世界 — 『吾輩は猫である』の誕生—

### ★開催日時、開催場所

平成27年9月10日（木）、17日（木）、24日（木）の3日間、豊田産業文化センター内とよた男女共同参画センターにおいて、一般学科教員 山口比砂による公開講座「夏目漱石の小説世界 — 『吾輩は猫である』の誕生—」が開催されました。

### ★講座全体の説明

一般の方々を対象として開催された本講座では、『吾輩は猫である』の誕生の背景や、物語設定の独自性、時代状況の投影、出版過程や初版本の工夫など、様々な角度から作品を考察し、漱石文学の核心に迫りました。豊田市だけでなく、みよし市在住の方の申し込みも多数あり、15名程の受講生の方々が3日間にわたって漱石文学の世界を満喫されました。

### ★初日の説明

10日は『吾輩は猫である』がどのような経緯で誕生したかを、当時の文献資料などから探りました。「異化」の手法や、猫の無名性という設定の有効性、また、「猫伝」として書かれた西洋や日本の古典作品と比較することで、『吾輩は猫である』の独自性を検証し、夏目漱石の小説世界の奥深さを読み味わいました。

### ★2日目の説明

17日は『吾輩は猫である』の中で描かれている「家庭」に焦点を当てて、同時代状況を踏まえた読解を行いました。同時代の「家庭小説」のベストセラーである『金色夜叉』や『不如帰』と比較することで、個人の人格を尊重した漱石の描く夫婦像が、「家庭（ホーム）」の幻想を逆照射していることを検証しました。

### ★3日目の説明

24日は、美しい本を出すことに拘った漱石の取り組みを探り、美術品としての『吾輩は猫である』に迫りました。挿絵や装丁などがどのような経緯で依頼され、完成したのかを考察した上で、復刻された数々の初版本を実際に見比べました。講義終了後も本を手に取り、受講生の方々の興味は尽きることがありませんでした。

### ★まとめ

受講生の方々は、単なる鑑賞とは全く異なる様々な作品へのアプローチ方法に強い関心を示していらっしゃいました。豊田高専図書館に所蔵されている貴重書をたくさんの方に見ていただく機会ともなり、有意義な公開講座となりました。



公開講座の受講風景



復刻された初版本の数々